



講演会レポート

2025
10

みなさん、こんにちは！本レポートを担当いたします、ハーフタイム学生スタッフ兼運営スタッフの佐藤（仮）と木村（仮）です！

このレポートでは、講演会の内容と得られた気付きを、実際に参加した2名のメンバーへのインタビューを交えつつ共有したいと思います。実は、ハーフタイムの活動って拠点だけじゃないんですよ！？ぜひ、最後までお読みください！



講演会の概要

今回は児相の職員さんと、ハーフタイムの代表である三枝とが交互に登壇し、講演会終了後は参加してくださった方々同士で意見を交える懇親会も開かれました

1 児童相談所が語る「実態」

専門相談機関である児童相談所の職員さんが、公的機関としての視座から、子供との向き合い方について話しました。実際のケースを用いたワークショップなど、参加者が主体的に参加しながら問題について考えることができました。



2 寄り添う地域の「リアル」

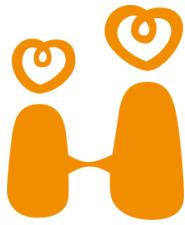


NPO法人の代表として三枝から実際に支援している子供たちとそれを支える民間機関のリアルな姿を話しました。
聞き手が「生きづらさを抱えた子供」をイメージし、話を通してその同異を痛感しました。

3 懇親会

これまで寄付などを通じてハーフタイムにご助力頂いていた方々や、今回の講演会から児相やハーフタイムに関心を持ってくださった方々が集まり、各々の立場や考えについて言葉を交いました。





講演会レポート

2025
10

講演会に参加してくださった2名の方からお話を聞きました



Q 講演会に参加した経緯はありますか？

A 児相について気になっていました。

三枝さんからの「普段の振り返りの話の中でも『児相』というワードは出てきますが、理念・業務内容など、児相がどのような活動をされているか、ご存じですか？」という問い合わせに説得させられたように思います。

児相という場所や児相に関わりがある子がHTにいることは知っていましたが、そこがどのような場所で、何を行なっていて、どのような課題に直面しているかなどを全く知らないということが、参加した理由として大きかったかなと思います。



Q 講演会に何を期待していましたか？

A 普段の活動を客観視する機会になるかも。

普段の活動とは異なる立場や視点が交わる講演会で話を聞くことによって、HTの内側と外側で異なる伝え方や視点の違いを認識し、結果的に普段の活動を新たな角度から見直す機会を得られるのではないかと思いました。

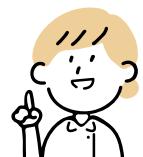


Q 講演会を経て何を学びましたか？

A 今後、もっと活動に参加したくなりました！

1部では、ヤングケアラーに関するケースワークから児相が直面している個人の権利と介入のジレンマを実感したり、児童相談所が増えることのメリットとデメリットを知れたりしました。また2部では、色んな「生きづらさ」を抱えている子供たちのリアルを聞き、改めて問題の深刻さを感じました。

子供を取り巻く複雑な問題への多職種連携・地域連携から見えるHTの社会的意義を通じて、その組織に属する「私」として自分の活動を見つめ直すことができました。





講演会レポート

2025
10

Q 講演会に参加した経緯は何ですか？

A チラシを読んで気になりました！

私は大学で保育について学んでおり、元々福祉について関心がありました。そして、講演会のチラシを読んで児相の方が来てくれると知り、興味を持ちました。自分はそこまで児相について詳しくなかった為、福祉に関する新たな知見を得られ、加えて実際の現場にいる人の話が聞けるチャンスになると思い参加しました。



Q 講演会に何を期待していましたか？

A 現場での行動指針が欲しかったです！

私は子供たちの表面的な発言や感情の表現だけに注視せず、裏にある背景や感情にも目を向け、等身大の子供たちと向き合う必要があると感じています。今回の講演会では児相の職員さんが話してくれるとの事でした。児相が向き合う子供たちの姿は、まさに私がHTの現場だけでは見られない裏側だと思います。児相がどのように対応するのかを知れば、自分が子供たちと向き合う上での主方針を固められると考えました。



Q 講演会を経て何を学びましたか？

A 子供と向き合う為の新たな視座を得られました！

今回の講演会では、児相の方が実際のケースを例として示し、聞き手に必要な対応などを考えさせるワークショップが用意されていました。児相方の意見や、参加した人達が考え述べた事柄は、とりわけ自分が大学で学んでいる保育の視点とも同異が見られ、刺激になりました。

